

（公社）日本給食サービス協会会長賞

『除去食解除になった日』

愛知県犬山市立楽田小学校 六年一組 男子 三村 統吾

僕は、学校の給食が大好きです。家では嫌いで食べれない物も学校の給食では、美味しく食べれたりします。だから、毎日の給食の時1回以上は必ずおかわりをしています。

僕には重度の卵アレルギーがあり、小学5年生の12月まで、除去食を食べていました。生後4カ月でアレルギーが分かり、僕は小学3年生の夏まで、卵を食べたことがありませんでした。保育園の時は、卵の他にも、乳製品、バナナ、もも、ごま、鶏肉も食べられなかったので、給食はもちろん、おやつもみんなと違うものを食べていました。

小学校に入学してからも、除去食で、卵メニユーがある日は代わりのものを出してもらっていました。たまに、友達から「いいなあ。それ食べたいな。」と言われると、とても嬉しい気持ちになりました。

小学3年生の夏休みから、卵が食べられるようになる治療が受けられるようになり、僕は2年4ヶ月かかって普通給食が食べられるようになりました。

小学5年生の1月、除去食が解除になった最初の給食の日、その日は、僕にとって、一番思い出に残る給食の日になりました。

朝、学校に行って、母に書いてもらった連絡帳を担任の先生に見せると、先生はとても喜んでくれ、朝の会の時間に、僕の除去食が解除になったことをクラスみんなに発表してくれました。クラスのみんなも喜んでくれましたが、これまで一緒に除去食を取りに行っていた友達のことを考えると、僕は少し複雑な気持ちでした。

その日、初めて食べる卵入りの給食のメニユーは、うずらの卵の味噌汁でした。給食当番の子が「お祝いに、卵をたくさんよそってあげるよー」と言って、大量の卵を入れてくれました。初めて食べたうずらの卵の味は、とても美味しくて、すごく感動しました。クラスの友達が代わる代わる「良かったな！」「おめでとうー」と声をかけてくれて、卵が食べられるようになったことを実感して、とても嬉しい気持ちになりました。

これまで重度のアレルギーがあっても、学校で給食を食べることができたのは、僕のためにメニユーを考えてくれた栄養士さん、除去食を作ってくれた調理員さんのおかげだと本当に感謝しています。

みんなと同じものが食べられないことで、たくさんの苦労がありました。その経験でアレルギーを持つ子の気持ちや誰よりもわかるようになったので、アレルギーで辛い思いをしている子をばげましてあげたいと思います。

これからも感謝の気持ちを忘れず、美味しい給食を残さず食べたいです。